

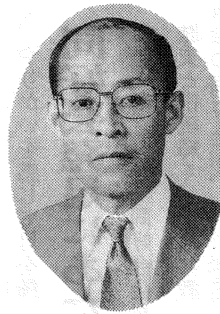


第149号

発行所 上高井教育会
 発行人 上高井教育会長
 市村 聡
 編集人 会報編集委員長
 滝澤 祥匡
 印刷所 須坂新聞社

研修と信頼を深める場に

上高井教育会長 市村 聡



近年、「激動する時代」といわれ、世界地図が大きく書き変えられるなど、世界の各地で歴史上、未だ経験したことのない大きな変動が起きている。わが国においても、高度の情報化、国際化へと速度を増しながら、価値観の多様化、核家族化、高齢化などが進んでいる。

これからの学校教育は、このような急激に変化する社会にどう対処していくかが問われている。学校がその適切な対応によって、予測のつき難い未来社会に生きる児童・生徒が、自己を十分に引き出して自己表現できるための能力や態度が身につくような教育を

期待されている。このような社会の変動に対応するために、小学校においては本年度より新指導要領のよる指導がなされるなど教育改革が推進されている。めざすは、「個性の尊重」であり、生涯学習の基盤を培うという観点に立ち「豊かな心をもちたくましく生きる人間の育成」にある。この新しい理念に立って、児童・生徒に指導・援助ができる教師の資質や能力が問われている。一人ひとりの個性を尊重しながら、その子なりの良さを伸ばすことを基本にすえて、児童・生徒が学習することに強い興味や関心をもって、生涯にわたって学び続けようとする意欲や態度が身につくような教育実践が教育現場に期待されている。

一九七三年にノーベル医学賞を受賞したオーストリアのコンラート・ローレンツ博士は、「人間は、自分の好きな人、しかも尊敬する人からのみ、伝統や文化を受け継ぐ事ができるようにプログラミングされている」と述べている。(全日中・中学校)即ち児童・生徒に真に好かれ、尊敬される教師にのみ学ぶ意欲を燃やし、理解し、伝統・文化を継承していくというのである。二十一世紀を展望した教育改革が推進されている現在、新たな理念に立った望ましい教育実践を築き上げられる教師をとの社会の願いは強い。三枝孝先生は、「二十一世紀の上高井教育は、遠き向こうにあるのではなく、実は足もとにある。現在をどうとらえるか、である」と、述べられている。

言うまでもなく、教育は教師の全人格と児童・生徒の全人格との直接的なふれ合いによって成立するものである。未熟な子どもたちの無限の可能性にはたらきかける教育という仕事は、教師自身の普段の研修と人間形成への努力によらなければならないものであることに、われわれ教師は深く思いをいたさなければならぬ。

明治十八年に創立された本会が、百有余年の歴史の中でそれぞれの時代の歴史的課題と取り組みながら、今日まで生々と発展し続けてきた。この遅しいエネルギーは、多くの先輩たちが上高井のこの道に情熱を傾け、実践を重ねられた業績にあることを忘れてはならない。会員一人ひとり、今こそこの輝かしい先輩の業績に学び、激動のさ中に立って流されることなく、歴史の流れを広く洞察し研修活動を通して研鑽につとめなければならない。

研究委員会活動では、中心講師として谷川彰英先生をお招きし、テーマを「子供にとってわかり、魅力ある授業のあり方」として新たに発足した。昨年までの研究成果をふまえて、委員会と各校の研究体制が一体となって、より資質の高い授業の創造を目指している。諸同好会・委員会も一層の充実、発展が期待される。現在、教育現場においては、様々な子どもを取り巻く問題をかかえ苦悩している。今こそ諸研修活動を通して英知を出し合い、会員相互の信頼関係を深めなければならない。

(東中)

上高井教育会だより

- 4・1 選挙公示(役員選挙)
- ・ 第1回代議員会 第2回選挙管理委員会
- ・ 理事長選挙 第3回選挙管理委員会
- ・ 第2回代議員会 第4回選挙管理委員会
- ・ 副理事長・理事・信教常任委員・信教議員選挙
- ・ 第5回選挙管理委員会
- ・ 教育会会計監査会
- ・ 研究委員及び同好会世話係会
- ・ 第1回常任委員会
- ・ 研究委員会 於須坂小学校
- ・ 講演会 中心講師 谷川彰英先生(筑波大学助教)

- ・ 演題 「楽しく学びがいのある授業をどうつくるか」
- ・ 第1回研究委員会世話係委員長会
- ・ 第3回代議員会 新任者会員迎会 於教育会館
- ・ 新任者会員18名 第6回選挙管理委員会
- ・ 第2回常任委員会 監事選挙
- ・ 同好会発足会 於須坂小学校
- ・ 第1回同好会世話係委員長会 於教育会館
- ・ 教育会定期総会・講演会 於須坂市民館
- ・ ○平成3年度会務報告並びに決算、平成4年度事業計画並びに予算の承認。
- ・ 講演会 講師 市川 健夫先生(信州短期大学教授)

- ・ 演題 「上高井の風土と文化」
- ・ ○会員意見発表
- ・ 「カウンセリング等生徒指導専門研修を通して」
- ・ 「子どもに学びながら」 早川 毅教諭(相森中)
- ・ 丘小) 下川 光子教諭(栗ガ)

- 6・3 第3回常任委員会
- ・ 第106回信教定期総集會 於松本市民会館
- ・ 参加者31名
- 9 第4回代議員会
- ・ 第16回上高井教育懇談会 於教育会館
- ・ 上高井教育会報第149号発行
- 25
- 30

わかる喜びこそ魅力

研究委員長

富澤 慶吉

本年度から一新した「子どもにとって、わかり、魅力ある授業のあり方」というテーマは、単純明快で授業研究の原点の立ち返っているように思う。

「わかった、できた」という喜びが持てれば、もっと知りたい、調べたいという意欲につながり、自ら学ぶことに魅力を感じるに違いない。従って「わかる」ということと「魅力ある」ということは、授業の中で一体であるはずだと考える。

同好会発足にあたって(知行合一)

同好会会長

黒岩 英雄

歴史と伝統輝く、上高井教育会の同好会が、延べ285名(五月二十日現在)の参加のもと、発足をみるに至りました。本年度も前年同様、哲学・文学・美術・音楽・理科・書道・算数・学・体育・地歴・俳文学・教育心理・カウンセリング・技術家庭・道徳の十四の同好会が設けられました。そして、それぞれの同好会に学識経験豊かな世話係・会長の先生方が当たられ、具体的に年間計画を樹立され、研究意欲に燃えて発足できたことは嬉しにたえません。

になってくるはずだということである。

つまり、教師がどういう指導仮説を持っているかということになる。教師がそのことを明確にわかっているなければ子どもが分かるはずもなく、魅力を感じるはずもない。子どもたちはたださまよっているだけで、何の力もつかず喜びも感じない。

そこで、私たちはまず授業研究の原点に立ち返り、次のことを明確にしなければならぬ。
(1) どういう活動を仕組むのかということである。つまり何を題材として選択し、どういう場面を構成するのか。またどのような資料を提示し、どう発問し、どこでどう助言

をし援助することがベターなのかをはっきりさせること。

(2) その活動の中でどんな力がつくのかを決め出しておくことである。つまり何を考えさせて理解させるか、何ができるようになるのかということである。

(3) その結果、どのような姿になるのかを想定しておくことである。つまり子どもが学習に魅力を感じて期待感を高め、意欲的に目が輝いてくる姿を見とどけることである。以上の活動・つけたい力・評価を指導仮説として、各教材ごとに分析し、授業を通して実証していくことがテーマに迫る研究となるであろう。(墨坂中)

い会員や女性会員の参加が少ない等、気がかりな点もいくつか指摘されております。同好会は、所詮、同好の士を持って組織されるのが基本でありますし、強制的な性格のものではない事は言うまでもありません。

しかし、教職員としての大事な研修の場としての同好会であり、教師の資質の向上、ひいては生涯学習にもつながっていくものとしても、その果たしている役割は大なるものがあると思えます。われわれ教師は、絶えず父母・地域社会から注目され、期待も寄せられています。学習指導にそして生徒指導にと、日常の忙しさは十分わかりま

すが、「忙中閑あり」とも言われれます。専門職としての、力量と資質を高める努力を怠ってはならないと思えます。道元禪師は、「玉に琢磨によりて器となり、人は、琢磨によりて仁となる」「玉磨からざれば光なし」と言われています。月満つれば即ち虧き、羊質虎皮とならぬように。お互いに磨き合い、錬磨し合ひ、知行合一を目指して。 「掉尾を飾れる」よう大いに盛り上げてほしいと願うものであります。最後に、各同好会のいよいよの発展と活性化を期待して、発足にあたってのあいさつをいたします。(高甫小)

平成4年度 県外視察者

氏名	学校名	視察目的	視察方面
柄澤 俊彦	栗ガ丘小	体育に関わる授業視察	関東中部
河合 美和	"	公開研究授業参観	東海
小山百合子	"	子ども自らが生き生きと追求する社会科学学習のあり方	関東
井出 玲子	高山小	創造性を伸長する教育課程	上越
今清水康恵	"	生き生きと行動して学ぶ子(国語科)	関東
宮坂 秀則	須坂小	同和教育指導のあり方	関西
清水 知子	小山小	他県の教育実践の様子を知る	関東
野池ゆき美	森上小	生活科授業研修	上越
中村 恵子	"	音楽科授業研修	関東
鹿野 朋子	日滝小	新CSにおける性教育の実践の見学研修	関東
北沢 晃	豊洲小	図工科における新CS完全実施に伴う創意工夫を実践校に学ぶ	関東
新津 亜紀	日野小	音楽教育	関東
田中かおる	井上小	生活科実践研究	関東
島田 陽子	高甫小	理科学習指導研究	関東
渡辺 弘子	旭ヶ丘小	性教育について研修を深める	関東
小林 清美	仁礼小	生活科指導	富山県
柳川 淳子	"	合唱指導	京都府
西沢 千冬	"	生活科指導	関東
小宮山公一	豊丘小	社会科(地域教材の開発)	東京
吉沢 正	小布施中	英語教育について	東京
今井 一弘	高山中	中学保健体育科の教科経営のあり方	関東
細江 洋司	常盤中	Team Teachingのあり方	名古屋
林 尚之	相森中	コンピュータを使った算数数学教育の研修	筑波
返町 孝子	墨坂中	美術教育の研修	関東
松山 哲郎	東 中	英語教育における様々な実践(中高一貫教育、英語科の設置)を見学研修	関東

研究委員会に参加して

宮下 芳一

平成一、二年度は同和教育推進教員として、三年度は森上小の同和教育の主任として、「同和教育研究委員会」に参加させていただきました。

郡全体の同和教育に取り組む先生方の一員として、毎年二校ずつの授業研究を通して「子どもたちが粘り強く自己形成していく教育のあり方」を追究し人権感覚の育成をめざして実践を深められたことは大変ありがたく、郡の研究委員会の積み重ねに大いに学ばせていただきました。

また、各校の研究と研究委員会のつながりをどうするか、という課題についても検討

四月より上高井にお世話になり早二カ月が過ぎました。学校にも、この上高井の地域にもまだまだ慣れず、気後ればかりして充実とはかけはなれた所にいた私にとって、上高井教育会総会は、まさに研修の場となり、またふっと自分を振り返る機会になった気がしています。

他郡よりの赴任で、上高井という土地柄について何の知識も持ち合わせていなかったのですが、「上高井の風土と文化」と題した市川健夫先生

討が重ねられ、各校の研究を立て、子どもたちの具体的な姿で語る小委員会を積み重ねることができたことも大きな成果であると思います。

なお、蛇足ですが四つの中学校区で行われている各校区同和教育委員会の指導案を一冊にまとめて各校の同和教育推進に役立てようということも具体化されそうです。

四年度は「特活研究委員会」に参加することになりました。委員会の先生方に、また多くの勉強をさせていたただけそうですので、副委員長としてがんばる決意を新たにしています。(森上小)

教育会総会で学んだこと

宮下 幸江

のご講演は、地域を知る一つのきっかけになりました。扇状地の地形的要因からさかんになった蚕糸業、また寡雨地であるという気候の特色を生かした巨峰ブドウの栽培、酸性土壌が大きな要因を占める小布施栗の品質の高さなど、なるほどと納得させられることばかりでした。町というのは風土に合わせた発達し、本来調和しているはずなのだと思えて感じました。

また、会員の意見発表はそれぞれの実践に基いた、興味

あるものでした。特に「人生そんなに甘くないことを思い知らされた。」冗談交じりに話された先生の発表は、共感を覚えました。悩んでいるの

初めての「米作り」から

牧野まさ子

今年度、初めて五年生を受け持つことになり、子どもと共に手探りの日々がスタートした。学年の黒板には「めざせ峰の原！毎日マラソン7周」と書き記されている。そして、先日からは「苗の観察・水の管理」忘れないように「も付け加えられた。五年生の最も大きな仕事

は自分だけではない。また明日から、がんばってみようか、そんな思いで帰路についた日でした。(高甫小)

校章・校歌めぐり ⑱

旭ヶ丘小学校



現在の校章は昭和四十六年当時の教職員の総意によって製作制定されたものである。

図案は北信五岳の眺望絶佳の環境を五角の形で表わし、併せて五枚の葉で緑につつまれた本校の将来の姿を表徴している。市章によって須坂市を表わし、「旭」によって旭ヶ丘小学校を表現してある。

新しく生まれた団地の中に新設された学校。すべての人

が新しくおいでになった団地。新しい立場で、地域にふさわしい教育を打ち立てたいとの願いも込められている。

全く緑の無い学校を緑一杯の学校にしたい。そして、夜が明けるのを待つのではなく、夜明けをもちたらず太陽となつて、明るい光を投げかけて昇る朝日のように輝かしい学校であり、ひとり一人の児童が精いっぱい自分の花、学校の花を咲かせて欲しいという学校目標をおりこんでいる。

校歌は、昭和四十八年に学校職員が作詞・作曲をしたものである。

旭ヶ丘小学校校歌

作詞 旭ヶ丘小学校 昭和48年度職員
作曲 昭利

なつたかき かげわたるここのかに
まはるはなかく たたてあふあふが
おほいて うれしはこころ しははり くさきをえて
あたらしい ほんとうのこころ
なつかしい ほんとうのこころ
あふあふが かなたのこころ
あふあふが かなたのこころ
あふあふが かなたのこころ
あふあふが かなたのこころ

学校造りを目指し、全児童・職員・PTA・地域の方々が一体となって汗を流し取り組んできた意気込みと新しい時代の感覚を活かそうと歌詞づくりがおこなわれた。そして、歌詞と曲の調和から、作曲は一遍の詩としての形態がとられ、最初の歌いだしから終わりまで流れて一つの歌として出来上がっている。(浅井雅子)

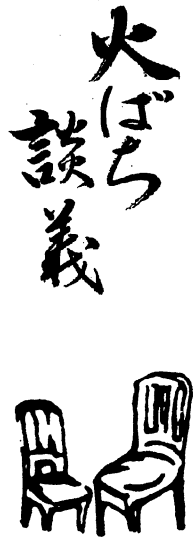
ら体験したことである。この時期は、どの田にも水が必要のため、上からは入れたいだけの水が流れてこない。

さて、どうしよう…。米作りを経験した先生から、「逆流」することを教えていただいた。実習田に面した道路の反対側には、大きな水路があり、水も豊富である。

(あっそうか、その水をせき止めればいいんだな。)"と喜び、コンパの先生と二人で、肥料袋に砂を入れ準備した。そして、近くにあった板を使って水をせき止めようとしたが、水圧が強くて、持ったが砂袋だけでは無理なことが分かった。二人で押さえてい

てやっとなのである。このまま田に入ると思案している所、農家のおじいさんが通りかかった。私たちの姿を見て哀れに思われたのか、四十坪ぐらゐの棒をみつめてこられた。そして水路の壁面にある小さな穴に差し込み、板の支えを作ったかと思うとあっという間に、水をせき止めてくださったのである。こんな簡単な方法でできるなんて大きな驚きでした。

さて、次はどんな体験ができるんだらう。この「米作り」は、私自身にとっても貴重な学習になりそうです。(日野小)



「A子からの電話」

業田 凌千

四月四日、夜遅く帰宅すると、前任校へ入学した解放子ども会の子どもたちから電話が入っていた。翌朝、こちらから電話をかけようとしていたとA子から電話がかかってきた。「先生、きのう出身表明できたよ。とてもドキドキしたけど、解放子ども会で勉強していることや、差別をなくすためにクラスの人に協力してほしいって言ったよ。それから交流学習会でいっしょだった人と友達になったよ。」母親からは「昨日は一日、朝から落ち着かず、仕事の手につかなかったんですよ、学校からA子が帰ってくるのが長く感じられて、じいちゃんとはあちゃんは、お仏壇に手を合わせてA子の帰りを待っていました。本人は割合ケロッとしていて…。夕方担任の先生が来て下さって、本当にできた人だなと実感がわいてきました。子どもたちはすごいですね。親ができないことをやるんだから……。」

(東中)

きのこを通して

寺尾 充

PKO法案の採決をめぐって、国会では牛歩戦術が展開されている中、全国的に梅雨に入った。私は今、山に入りたいなと思っている。

きのこに関する本を何冊も買い込んで来て、暇さえあればながめている私に、妻がたまにかねて「なぜそんなに同じ本を繰り返し読むのか、何かおもしろいことがあるのか」と訊くので「毎日見ているのだ」と答えた。「同じ事をするのだから聞いた」と妻が一寸感心。その大家は「子ども達を前に知らない人とも、何回も会ううちに、顔馴染みになり仲良くなれるのと同じように、野の花とも、何度も何度も会うことが大事です」と話したそう。「分かってい

ほめる

島田 昌英

入学して二ヶ月余り、中一の生徒たちの毎日の生活記録もポツリポツリと学級の仲間に対する批判的意見が出始めてきた。そろそろ学級会らしいことをしよう、意識調査をしてみた。不満に思うことについては、予想どおりのものだった。しかし、学級の良いと思うことについては意外だった。「明るく元気がいい。」「みんな仲良く協力できる。」「大きな声で発言できる。」「仕事などやる時は、協力し合っている。」「これなら話し合いなど必要ないすばらしいクラスではないか。と思いつつ。とりあえずはと、良い所を生徒たちに

信教

牛山

(正木・石田)

- 委員長 滝澤 祥匡(仁礼小)
- 副委員長 田幸 文雄(日滝小)
- 委員 花形 敏郎(高山小)
- 正木 あや(日滝小)
- 勝山 健(森上小)
- 井口 博司(井上小)
- 古幡 昌平(相森中)
- 石田 正夫(高山中)
- 通高(東中)

編集後記

お忙しい中、原稿をお寄せ下さった先生方、ありがとうございます。

本年度は、次のメンバーで会誌・会報をお届け致します。

人は、そう言うでしょ」と私。本当は秋までまぢきれないだけなのだが。そんな本の中でけっここの時期はずれに出るきのこを知ったわけだ。「赤ちゃん、松茸採ったんだってな。」

昨冬、一杯の席で話し掛けられた。話は、採った場所からその山の話になり、長野インターチェンジの建設で、どんどん変わっていく村の景色の話になった。私が松茸を採った山はインター及び高速道建設のために土を削り採られた、山容が半分欠けてしまっ

手になったとは言われたことがない。やはり人間性かなと思いつつ、ほめ上手な教師でありたいと願う今日この頃である。

(相森中)